芦別市地域公共交通会議

平成25年6月26日設置

概　要

芦別市は、北海道のほぼ中央に位置しており、東西に24．96km、南北に48．65km、面積は865．04㎢と広大な土地を有している。市内にはJR根室本線が通っているほか、国道38号と国道452号の2路線と11本の道道があり、札幌市まで約110km、旭川市まで約40kmの地点に立地している。人口は令和3年12月末日現在で12，430人、そのうち65歳以上人口は5，901人で高齢化率は47．5%となっています。

本市では、人口減少及び高齢化の急速な進展が社会的問題となっているほか、広大な行政区域に集落が点在するといった地理的問題を有していることから、広域移動の交通手段となる鉄道、高速バス、地域間バス、及び市内の各拠点を結ぶ路線バス、デマンド型交通やハイヤーなどによる運行が重要となっています。

このため、市内の公共交通のニーズを把握したうえで、本市にとって利便性の高い持続可能な公共交通体系を構築するため「芦別市地域公共交通計画」を策定します。

○地域公共交通の現況

・JR根室線（芦別駅、上芦別駅、野花南駅）
・北海道中央バス(株)　高速バス1路線、市外線1路線
・空知交通(株)　市内バス路線（4路線7系統）
・共立タクシー(有)　市内乗合運行（1路線）
・ハイヤー2社（陣痛タクシー含む）、介護タクシー1社
・スクールバス（4路線）

○地域公共交通の課題

・利用者の減少
・交通確保維持のための財政負担
・JR根室線の存続

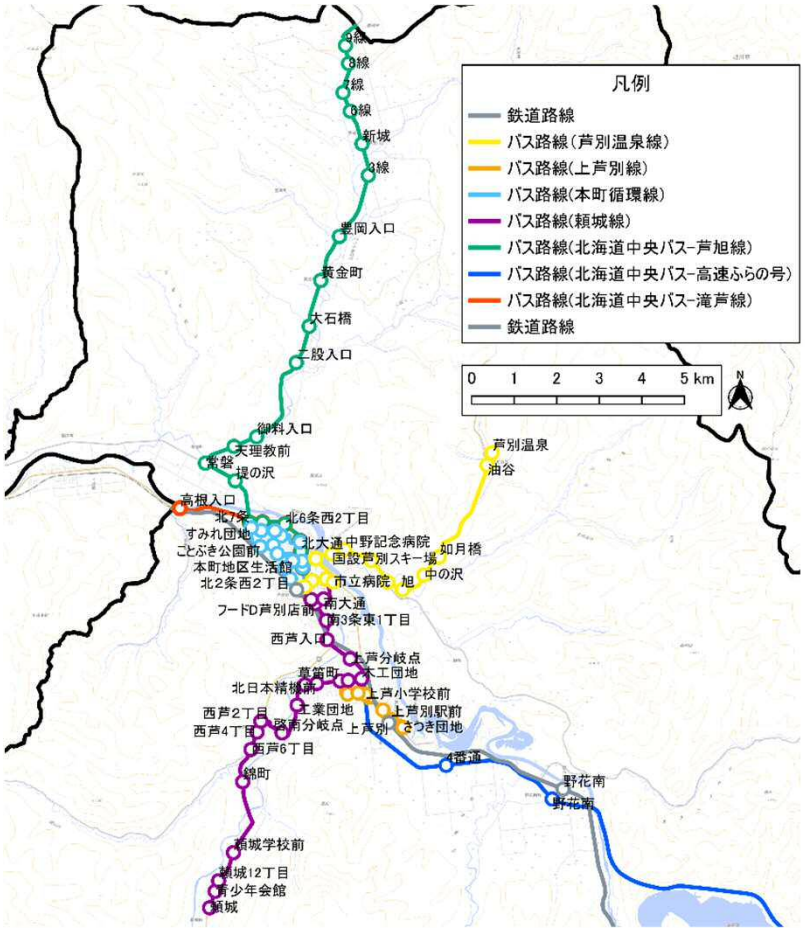
○調査の主な内容

・運行事業者への交通乗降調査の実施
・現状把握のため地域住民への調査（市民アンケート調査、意見交換会）
・現状の課題、分析を踏まえた計画策定に向けた整理

○地域公共交通会議開催状況

・令和4年1月20日　第2回協議会（書面協議）を開催
　公共交通計画策定に向けた情報提供（市民アンケート調査等）
・令和4月1日31日　第3回協議会（書面協議）を開催
　公共交通計画策定に向けた調査報告に関する合意形成

公共交通の概要



芦別市地域公共交通会議　計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

1．令和3年度市民アンケート調査結果

・立地適正化計画と地域公共交通計画の策定に併せてアンケート調査を実施したところ、市民（530/1,300）から回答があり、そのうち公共交通に関する調査結果をまとめているところです。

　調査内容については、通勤通学、日常の買い物、病院・福祉施設の利用時における移動手段、公共交通の利用頻度等の調査となっています。

○市内公共交通一覧

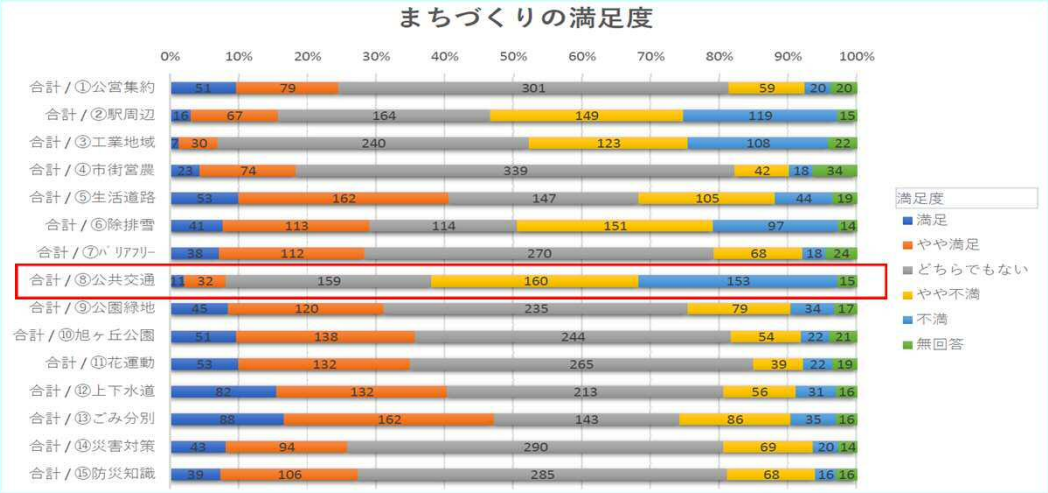
種類	名称 等	数量	路線等	事業主体
鉄道	JR根室本線	市内3駅	芦別駅	JR北海道
			上芦別駅	
			野花南駅	
高速バス等	中央バス	地域間幹線1路線	滝芦線	北海道中央バス（株）
		道広域生活交通路線 1路線	芦旭線 ※R3.10廃止	
	高速ふらの号	都市間高速1路線	富良野-札幌	
路線バス	キラキラバス	市内4路線	本町循環線	空知交通（株）
			芦別温泉線	
			頼城線	
			上芦別線	
スクールバス	—	4路線	常磐線	芦別市
			新城線	
			西芦別線	
			野花南線	
タクシー	芦別ハイヤー・タクシー	—	—	空知交通（株）
	共立タクシー	—	—	共立タクシー（有）
介護タクシー	介護タクシー恵愛	—	—	介護タクシー恵愛
陣痛タクシー	芦別市陣痛タクシー	—	—	空知交通（株）
障がい者送迎サービス ※令和元年度をもって事業廃止	—	—	—	芦別市社会福祉協議会（芦別市受託）

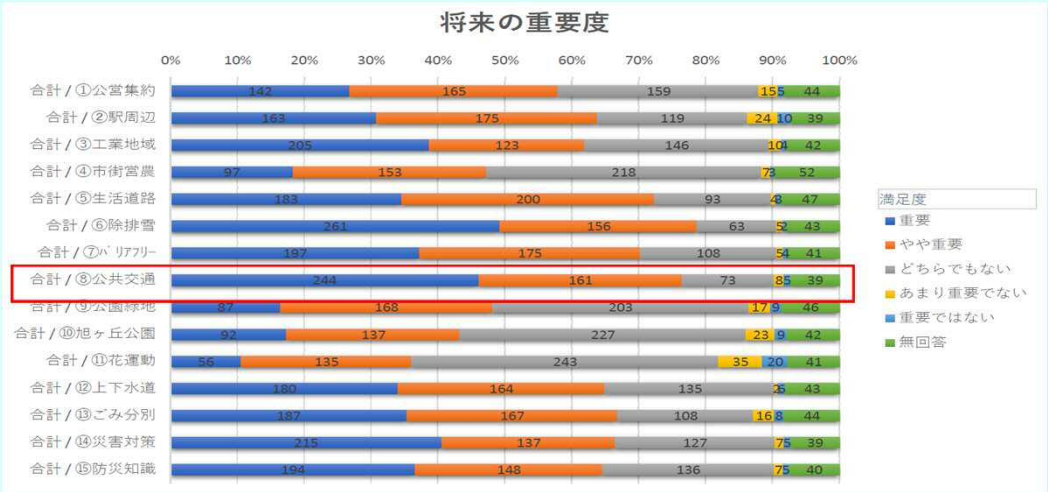
⑴　市民アンケート

　本アンケートは、市内在住の29歳以上から70歳以下の計530人の方から回答があった結果です。

行ラベル	個数 / ②年齢
29歳以下	43
30～39歳	74
40～49歳	72
50～59歳	90
60～69歳	131
70歳以上	120
総計	530

⑵　まちづくりの満足度（現在／将来）

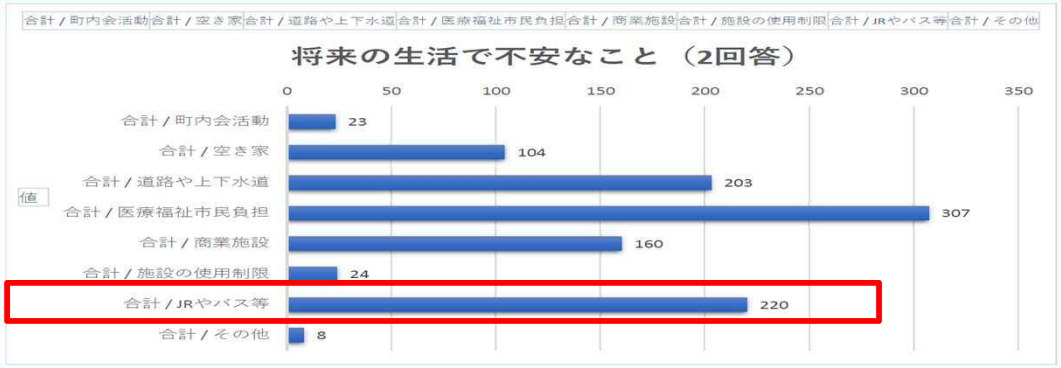




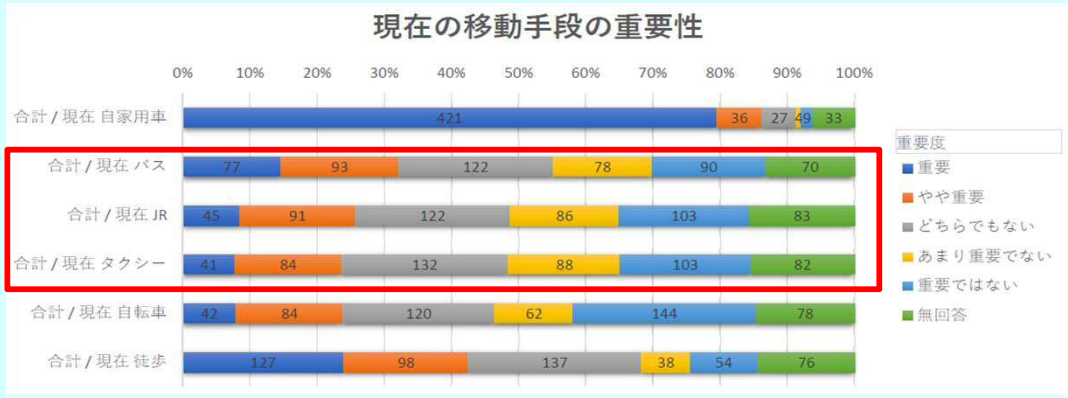
芦別市地域公共交通会議　計画策定に係る事業の取組状況

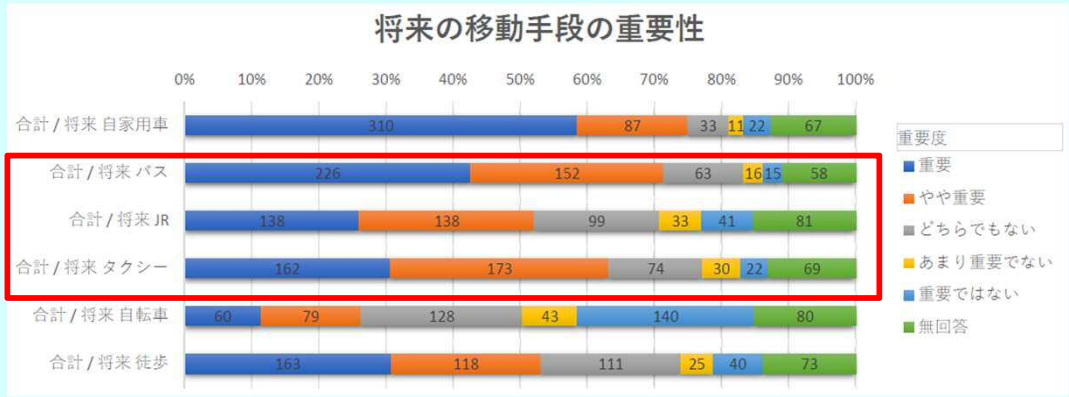
●事業の結果概要

⑶ 将来の生活で不安なこと

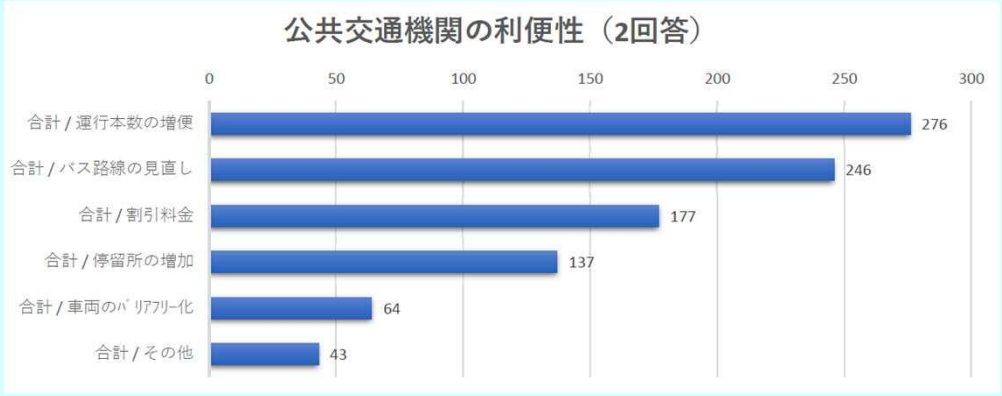


⑷ 移動手段の重要性（現在／将来）





⑸ 公共交通の利便性



⑹ アンケート調査の結果のまとめ

① ⑵のまちづくりの満足度より、現在と将来を比較すると公共交通に関する数値が伸びていることから、地域の足となる交通の確保が重要であることが伺えます。

② ⑶の将来の生活で不安なことより、移動手段の確保が重要であることが伺えます。

③ ⑷の移動手段の重要性より、現在と将来を比較するとバス、JR、タクシーによる移動手段が重要であることが伺えます。

④ ⑸の公共交通の利便性より、利用者からみた利便性の確保が求められていることが伺えます。

芦別市地域公共交通会議　計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

２「運行事業者への交通乗降調査の実施」結果

キラキラバスの2016年から2020年までの路線別年間利用者数の推移は、以下の通りです。

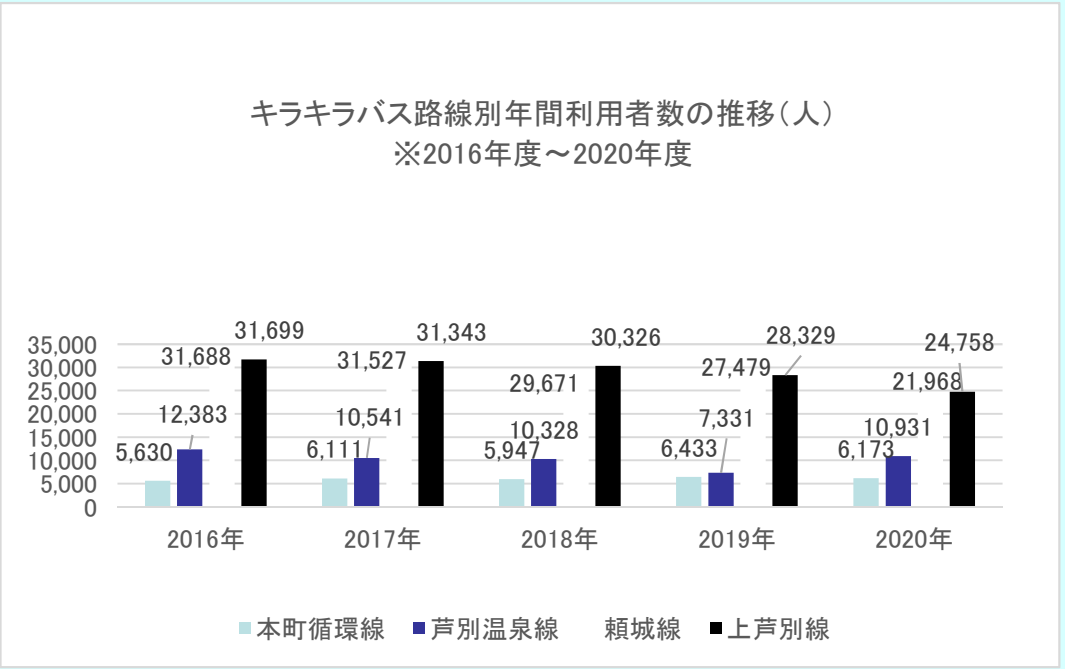
年度別の利用者数を比較すると緩やかに減少していますが、コロナ禍にあった2020年は激しい減少は見受けられませんでした。

「芦別温泉線」の利用者数は、2019年と2020年を比較すると増加していますが、この要因としては、同年に1往復分を増便したことによるものと考えられます。

路線別の利用者数を比較すると、「上芦別線」の利用が最も多くなっており、「本町循環線」の利用が最も少ない結果になりました。

年／路線名	本町循環線	芦別温泉線	頼城線	上芦別線	合計
2016年	5,630	12,383	31,688	31,699	81,400
2017年	6,111	10,541	31,527	31,343	79,522
2018年	5,947	10,328	29,671	30,326	76,272
2019年	6,433	7,331	27,479	28,329	69,572
2020年	6,173	10,931	21,968	24,758	63,830
合計	30,294	51,514	142,333	146,455	370,596

キラキラバス路線別年間利用者数の推移（人）※2016 年度～2020 年度



キラキラバス路線別年間利用者数の推移（人）※2016 年度～2020 年度

芦別市地域公共交通会議　計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

1．基本理念（案）

「立地適正化計画によるコンパクトなまちづくりと地域交通の再編との連携により、地域公共交通のあり方、市民・交通事業者・行政の役割を定め、地域にとって望ましい地域公共交通のマスタープランを策定する。」

2．基本方針（案）

⑴ 地域公共交通施策の明確化

市が各地域における考え方を示したうえで、公共交通ネットワークの整備を進めるため、公共交通サービスの基準や交通施策のあり方のほか、個別事業の実施理由や効果に関して明確に示します。

⑵ まちづくりとの連携強化

まちづくりと連携した面的な公共交通ネットワークを再構築することを明記することで、コンパクトな都市構造の実現を支援する地域公共交通計画の検討を可能とします。

⑶ 関係者間の連携強化

法定協議会による協議、意見交換及び合意のもとに計画策定を進めることにより、行政の動きと歩調を合わせた民間の計画を立てることができるほか、新たな問題を解決するための協調行動を話し合います。

また、関係者間の連携の強化を継続するため、公共交通のスパイラルへの転換のきっかけづくりを進めます。

⑷ 公共交通機関どうしの役割分担の計画化

地域公共交通計画の策定をきっかけに、地域全体のネットワークのあり方について、鉄道、バス、タクシーなどを一体として検討し、各地域で活用できる公共交通機関全体の連携強化を図るほか、効率性を高めるための方針や目標、事業を関係者間で検討します。

芦別市地域公共交通会議　計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

(1) 芦別駅前に北海道中央バス（高速ふらの号、滝芦線）のバスのりばを整備したことにより、JR根室線、市内路線バス、市内乗合運行及びハイヤーへの乗り継ぎがスムーズなり利用者への利便性の向上が図られたことから、まちのコンパクト化を目指す立地適正化計画と連携した地域公共交通計画を策定することで、地域にとって望ましい公共交通体系の構築を目指します。

（芦別駅前）

（案内表示）

（市内路線運行のキラキラバス）

（「芦別・新城線」の乗合タクシー）

●事業実施の適切性

・計画のとおり事業は実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果（案）

運輸局記載欄